

# 新教育課程にむけて —移行期における小学校外国語の課題と方向性—

研修・支援部	研究主事兼指導主事	大 槻 裕 代
	研究主事兼指導主事	有 田 清 美
	研究員	竹 本 恵

## 要約

小学校、中学校、高等学校すべてにおいて新学習指導要領が提示された。外国語における教育改革の動きが加速するなか、特に、小学校においては、平成 23 年度より高学年で年間 35 時間実施されてきた外国語活動の成果と課題を踏まえ、平成 32 年度からは中学年で外国語活動（年間 35 時間）、また高学年で外国語科（年間 70 時間）が導入されることになる。

新学習指導要領の全面実施に向けて、移行期 2 年間は中学年高学年ともに文部科学省が開発、発行した新教材を活用しながら実施していくことになる。今回文部科学省により開発、発行された新教材は、これまでの外国語活動で使用されてきた「Hi, friends!」と比較すると、中学年用新教材の「Let's Try!」においては、「Hi, friends!」がベースになっている部分も残ってはいるものの、高学年用新教材「We Can!」においては、語彙や表現、活動含め情報量が格段に増え、新しい学習内容をはじめ、既存の事項についてもさらに高度な活動や言語材料が提示されているといえる。

そこで本研究では、学校現場が新学習指導要領へ円滑に移行できるため、移行期の主たる教材である新教材について、そのポイントを整理し、年間指導計画例、単元指導計画等例等を作成することとした。その際、学校現場での課題を明らかにし、課題に対する手立てを盛り込みながら、出前講座として学校現場へ還元することのできる成果物を準備した。

方法として、①文部科学省から配布（H29 年 9 月 21 日説明会）された年間指導計画案を考察 ②新しく学習する事項の含まれる単元を一例として研究 ③出前講座からの振り返り を主とし、派生する事項もあわせて研究対象としてすすめた。

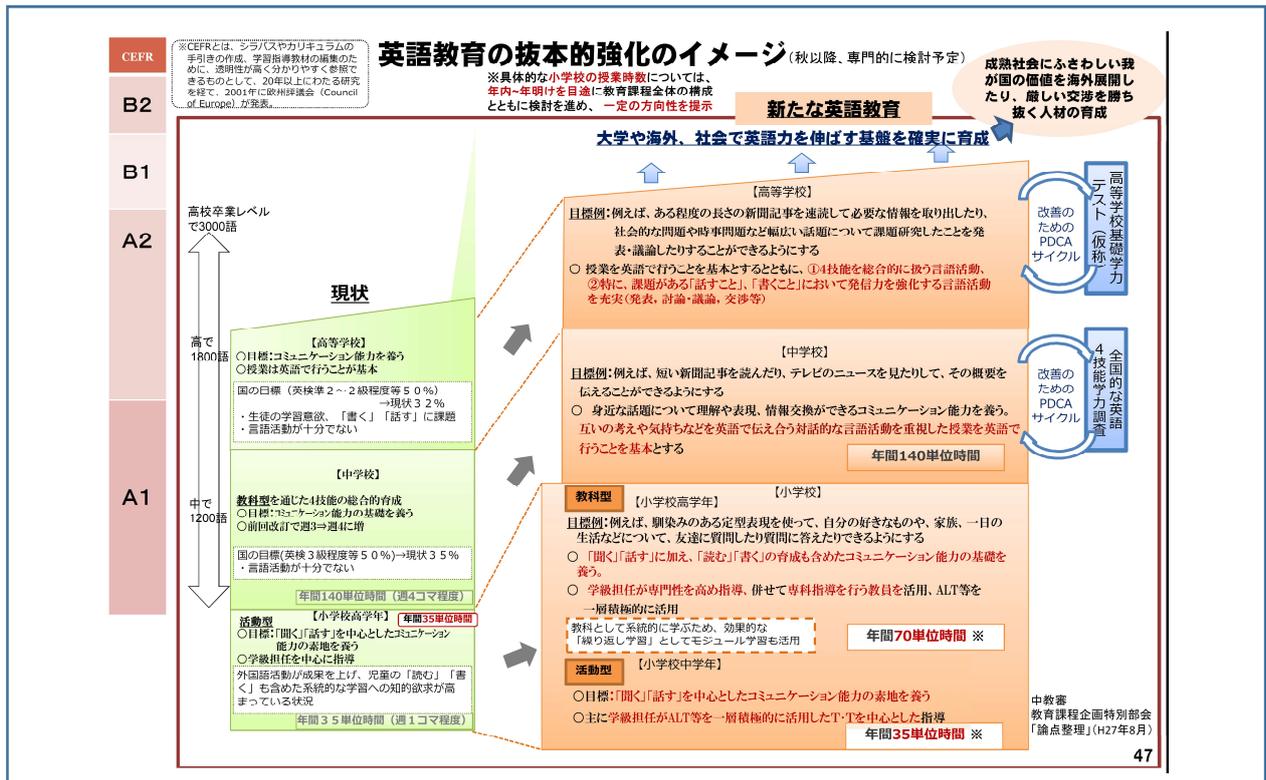
研究による成果物を出前講座において活用し、さらに訪問先からの要望や質問をもとに内容をブラッシュアップしながら、学校現場の現状把握、課題等を具体的に理解することができた。今後、小学校から中学校へ、そして高等学校へと接続していく視点を加え、さらに研究をすすめていく必要性を感じている。

キーワード：英語教育改革、新学習指導要領、移行期、年間指導計画、単元指導計画、出前講座

## 1 英語教育改革の背景

図 1 によると、文部科学省の描く英語教育改革において、小中高で目指すそれぞれの英語教育のレベルが、共通指標である CEFR（図 2）によって示されている。小学校において A 1、中学校で A 1～A 2、高等学校では A 2～B 1 と設定されている。これらのレベルは、現在の英語教育の目指すレベルからそれぞれ 1 レベルずつ上がっている。そのため、これまで小学校の高学年（第 5 学年、第 6 学年）に設定されている外国語活動が教科となり、中学年（第 3 学年、第 4 学年）に新たに外国語活動が設定されることはしかるべき措置であると考えられる。

図1 英語教育の抜本的強化のイメージ



〈出典：中央教育審議会教育課程企画 特別部会「論点整理」平成27年8月〉

図2 (参考)外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠について

**(参考)外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠について**

- CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て策定された。欧州域内外で使われている。
- 欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられたりするなどしている。

熟練した言語使用者	<b>C2</b>	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	<b>C1</b>	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	<b>B2</b>	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	<b>B1</b>	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	<b>A2</b>	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	<b>A1</b>	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合っているか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

(出典) プリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

〈出典：ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構〉

## 2 小学校移行期の新教材について—中学校1年生における英語教育についての課題から—

平成 26 年 9 月 26 日「英語教育の在り方に関する有識者会議審議」報告によると、中学 1 年生対象による調査に以下の点が示されている。

### ○外国語活動の授業で「もっと学習しておきたかったこと」の回答

- ・英語の単語を読むこと (77.9%)
- ・英語の単語を書くこと (81.7%)
- ・英文を読むこと (77.6%)
- ・英文を書くこと (78.6%)

この結果を受けて、小学校の外国語活動で音声中心に学んだことが、中学校での段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないこと、発音と綴りの関係の学習や文構造の学習に課題があることが有識者により指摘されている。このような状況を踏まえると、小学校高学年段階において、文字の扱いや文構造への気付きなど、中学校との接続を意識した指導に有効な教科書・教材が必要であることが分かる。したがって、特に高学年では、中学年での外国語活動を継承し、中学校への円滑な接続を踏まえての、アルファベット文字の認識、日本語と英語の音声の違いや特徴、語順への気付きを促す指導に有効な教材が必要であることが提示され、新教材「Let's Try!」及び「We Can!」の開発、発行に至った。

## 3 研究の目的と方法

平成 30 年度から 2 年間の移行期を迎えるに当たり、学校現場の混乱や不安を最小限にとどめ、各小学校がスムーズに移行期間に入り、また先の全面実施に接続できるような状況を目指すことが重要と考えた。そこで、京都府内の各小学校において、移行期の「外国語活動」の現状をおさえながら、新学習指導要領に基づく年間指導計画例等を作成し、出前講座で提示、波及することを目的とした。

方法として、平成 29 年 9 月の文部科学省による新教材説明会の実施後から、移行期間における新教材を扱った年間指導計画例及び単元指導計画例の作成を始めた。平成 29 年 11 月からは、学校現場への発信を目的に、出前講座を開始した。研究による成果物を出前講座で活用し、学校現場からの要望や現状把握、課題等を具体的に理解し、ブラッシュアップするように努めた。

## 4 研究の成果

今回研究対象は、教科となる高学年向けに開発、発行された「We Can!1,2」とし、その年間指導計画例を作成するとともに、「We Can!2: My Summer Vacation.」の単元指導計画例及びそれに伴うワークシート等の作成を行った。言語材料として新たに位置付けられた「過去形」や「書くこと」の内容を取り扱うことで、学校現場の混乱を共有し、不安に対応することができた。

モデルとなる、実際の年間指導計画例、単元指導計画例、授業での言語活動例を示した演習、ワークシート等を開発し(図3,4)、出前講座においてその活用方法やポイント等を発信・普及することで、移行期における外国語教育のスムーズな実施につなげることができた。

図3 出前講座用作成資料の一例

**新教材「We Can!」 指導上の留意点**

○担任主導で行うことを考慮して作成されているので、児童が担任の好きな物を予想したり、担任にインタビューをしたり、担任の似顔絵を描いたりするなど、担任にスポットが当たる場面が多く設定されている。

例) 担任の似顔絵を描く活動 計3回(We Can!1…1回 We Can!2…2回)

**学級経営が基盤 + 担任と児童との関係も重視**

○児童が自分の思いを伝えること(自己表現活動)ができるよう、意味付けや必然性のある活動が工夫されている。経験の違いが交流する必然性を生むが、児童間の経験の差だけが取り上げられないようにしたい。

例) We Can!2 Unit5 「My Summer Vacation」…夏休みの思い出

**学級や児童の実態に応じた十分な配慮が必要**

Words and Letters	Grade	Class	Name
Alphabet (2)			
rrr rrr			
rice		river	
racket		rabbit	
Russia			

\* rで始まる語を書きなさい。

図4 出前講座用作成 年間指導計画 5年生用 一例

**平成30年度小学5年生外国語活動年間指導計画参考例**

小1～年3までを見直して!

**④ チェック事項**  
外国語学習における5年生(H30)の実態  
小学校

- ほとんど触れていない
- 月に1、2回程度
- 年間30時間実施
- その他

H30 5年生				文部科学省案を基本に各学期に目標を設定して配列								
使用教材	単元	タイトル/題材	時数	配当時数	使用教材	単元	タイトル/題材	時数	配当時数	主な授業や表現例	活動例	留意点等
HF1	1	Hello! 挨拶 挨拶	2	1	HF1	1	Hello! My name is ~. What's your name? Thank you. Good bye.	2	1	pp2-3, p6		* 配当時数が1
HF1	2	I'm happy. ジュースや〜 感情 様子	2	1	HF1	2	I'm happy. How are you? I'm happy. / fine / okay / hungry / tired / sad	2	1	p8, p9 Activity		* 配当時数が1
HF1	3	How many? 数 身の回りのもの	4	4	HF1	3	How many pencils? - Five pencils / 身の回りの物、数	4	4	すべて取り扱う		* 数の導入(1〜20)
HF1	4	I like apples. 果物、食べ物 飲み物、スポーツ、生き物	5	5	HF1	4	I like ~. I don't like / Do you like ~? / Yes, I do. / No, I don't. 果物、飲み物、食べ物、スポーツ、動物の名前	5	5	I like ~. I don't like / Do you like ~? / Yes, I do. / No, I don't.	すべて取り扱う	
HF1	5	What do you like? 色 形	4	4	HF1	5	What do you like? What brand / color / fruit / sport do you like? I like ~.	4	4	すべて取り扱う		
HF1	6	What do you want? アルファベット大文字、身の回りの物	5	5	HF1	6	What do you want? アルファベット大文字、身の回りの物	5	5	What's that? It's a piano. 身の回りの物の名前	すべて取り扱う	この單元から活字体の大文字に漢字を入れ分限し開始
HF1	7	What's this? 身の回りの物	4	4	HF1	7	What's this? 身の回りの物	4	4	アルファベット小文字(a〜z)DF2-1, LL3, LL4. What's that? Hint, please. How many letters? Do you have ~? / Yes, No. / That's right. Sorry. Try again.	すべて取り扱う	* 31〜100の数の導入、アルファベットの読み方に慣れ親しむ
HF1	8	What would you like? 食べ物、料理	4	4	HF1	8	What would you like? 食べ物、料理	4	4	Do you have PE on Monday? Yes, I do. No, I don't. What do you have on ~? I play ~. / I want to be ~. / I want to ~	pp18-19で導入、p20 p22 (アルファベット)で導入	* 活字体の大文字で自分の名前を書いたり、そのつづきを書いたりする
HF1	9	What would you like? 食べ物、料理	4	4	HF1	9	What would you like? 食べ物、料理	4	4	Where is the treasure? / Is straight / Turn ~ / You can see it on your ~. It's on / in / under / by.	pp50-51, p52, p55	* 活字体の文字を読んだり書いたりする
HF1	10	What can he do? 一日の生活	8	8	HF1	10	What can he do? 一日の生活	8	8	Who is your hero? This is my hero. He / She is good at ~ / He / She can ~. He / She is kind, tall, quiet, strong, funny, active, brave, gentle.	pp65-67, p68 Let's listen 2. Activity, p70 Let's listen 4&5, p72	* 活字体の文字を読んだり書いたりする

京都府総合教育センター  
H29(2017.11現在)  
\*資料は内容を更新する可能性があります。

**⑤ 準備チェック**

- 研修ガイドブックを見る。
- 教材を見る。
- 音源を聞く。
- 映像を見る。
- 年間指導計画を立てる。
- 学習指導案をつくる。
- ICT環境を整える。
- 学級経営上配慮すべき内容や活動を確認する。

**20時間 【1学期の目標】 自己紹介(気持ちや好きなもの)、アルファベット大文字導入**

**20時間 【2学期の目標】 アルファベット小文字導入、自分の身の回りの物やことの説明**

**10時間 【3学期の目標】 他者紹介(あこがれの人ができることが言える)**

**\* 太枠の教材は、別途印刷の必要あり**

**H30 5年生 学習内容ポイントまとめ**

- アルファベット
  - 大文字+小文字
- 3人称
  - He と She の導入
  - on と in / under
- 物の位置の導入
  - in / on / under
- 新表現
  - be good at ~
- 書くこと
  - 書き写す活動

※チャンツ、ジングル、ソング(歌)など積極的に取り入れる!  
※移行期間は「慣れ親しむ」外国語活動の延長で!

次年度は、小学校における移行期2年目となる。小学校教員が外国語の指導をよりスムーズに行えるよう、教材や演習等の開発、出前講座の充実を図っていきたいと考える。さらに、小学校から中学校、そして高等学校へと接続していく視点から、外国語教育のポイント等を見直し、小中高の接続を意識した研究を進めていきたいと考えている。

**参考資料等**

- 文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議審議」報告(平成26年9月)
- 中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」(平成27年7月)
- 文部科学省発行 外国語活動・外国語研修ガイドブック(平成29年7月)
- 文部科学省新教材説明会配布資料(平成29年9月)

**謝辞**

本研究に際し出前講座を受講いただきました府内各小学校の校長先生をはじめ、教職員の皆様には深く感謝申し上げます。

- 【平成29年度出前講座対象校】※出前講座訪問順による
- |            |               |             |
|------------|---------------|-------------|
| 亀岡市立城西小学校  | 長岡京市立長岡第五小学校  | 亀岡市立青野小学校   |
| 木津川市立相楽小学校 | 亀岡市立曾我部小学校    | 長岡京市長法寺小学校  |
| 城陽市立寺田南小学校 | 京田辺市立草内小学校    | 向日市立第4向陽小学校 |
| 木津川市立棚倉小学校 | 大山崎町立第二大山崎小学校 | 木津川市立恭仁小学校  |
| 亀岡市立吉川小学校  | 城陽市立今池小学校     |             |
| 向日市立向陽小学校  | 井手町立井手小学校     |             |